

第515号

平成28年度第3号

●発行 栃木県土地改良事業団体連合会

●ホームページアドレス <http://www.tcgdoren.or.jp/>

メールアドレス [soumu@tcgdoren.or.jp](mailto:soumu@tcgdoren.or.jp)

みどり  
水土里ネットとちぎは本会の愛称です。



県営圃場整備事業氏家地区（さくら市）  
【南部地区】 采女地内 春の桜と田園風景



水路で羽を休めるカワセミ

第515号

## 栃木の土地改良

平成28年度第3号

### 表紙の写真

(上段)



県営圃場整備事業氏家地区において整備されたほ場の春先の田園風景。水田には二毛作の麦が作付されていて田面は、青々と色づいています。これから麦秋を迎え、収穫され、さくら市の新グルメ「氏家うどん」の原材料になるのでしょう。

(下段)



カワセミは、漢字で「翡翠」とも書かれるように、美しい体色をしていて「飛ぶ宝石」とも言われ、日本全国に分布しています。肉食で小魚やエビなどを特徴的な長い嘴でとらえて食べます。餌となる小動物が生息する豊かな環境が整っているのでしょう。

## —主な内容—

### 会議・総会・部会

- ◇平成28年度第3回理事会を開催…………… 1
- ◇平成28年度第1回農業農村整備部会を開催…………… 1
- ◇栃木県ほ場整備連絡協議会第23回通常総会を開催…………… 2
- ◇栃木県土地改良換地士部会第43回通常総会を開催…………… 3

### 事業情報

- ◇平成28年度換地関係異議紛争処理実務研修会を開催…………… 3
- ◇栃木県土地改良換地士部会優良先進事例視察研修会を開催…………… 4
- ◇平成28年度関東農地集団化推進協議会講習会及び幹事会を開催…………… 4
- ◇農業農村整備事業推進に関する要請活動を実施…………… 5
- ◇「農業農村整備の集い」を開催…………… 6
- ◇平成28年度土地改良区体制強化事業複式簿記促進研修会を開催…………… 8
- ◇平成28年度土地改良区等職員研修会を開催…………… 9
- ◇第32回とちぎ“食と農”ふれあいフェア2016に出展…………… 10
- ◇「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2016を開催…………… 11
- ◇美しいとちぎのむら写真コンテスト審査委員会を開催…………… 12

### 会員土地改良区（連合）情報

- ◇鬼怒川右岸地区合併予備契約書調印式が開催…………… 14
- ◇平成28年度県営土地改良事業の換地業務に係る  
感謝状贈呈式を開催…………… 15
- ◇シリーズ土地改良区紹介⑱水土里ネット氏家（さくら市）…………… 16

### 報告

- ◇女性が語る、男女共同参画の推進に係る意見交換会に参加して…………… 18

### お知らせ

- ◇「農業競争力強化プログラム」の説明動画が  
農林水産省HPに掲載…………… 20
- ◇株式会社日本政策金融公庫からのお知らせ…………… 20

## 平成28年度第3回理事会を開催

日 時：平成28年12月12日（月）

午後4時30分～

場 所：ホテルニューイタヤ

【報告事項】

平成29年4月職員採用について

本会は、第3回理事会を開催し、次の3議案並びに報告事項について審議し、全て原案どおり可決決定・承認しました。

【議事】

第1号議案 平成28年度一般会計予算の補正について

第2号議案 職員給与規程の一部改正について

第3号議案 業務災害補償規程の一部改正について



開会挨拶を述べる大久保寿夫会長

## 平成28年度第1回農業農村整備部会を開催

日 時：平成28年10月6日（木）

午前10時00分～

場 所：栃木県土地改良会館

本会は、平成28年度第1回農業農村整備部会を開催し、次の2議案について審議し、原案どおり承認、可決決定しました。

引続き、次の報告事項については、それぞれ了承して、閉会しました。

【議事】

第1号議案 平成27年度活動報告について

第2号議案 平成28年度事業計画について

【報告事項】

(1) 農業農村整備事業予算確保に係る要請活動について

(2) 平成29年度県農地等利用最適化推進に関する意見及び県農業等施策並びに予算に関する要望事項について

(3) 「農業農村整備の集い」について



開会挨拶を述べる田井哲部会長

部会終了後、上條剛関東農政局農村振興部水利整備課強化指導官並びに南木好樹栃木県農政部農地整備課長を講師にお迎えし、次の研修会演題についてそれぞれ説明をいただきました。

【研修会】

(1) 「平成29年度農業農村整備事業等予算概算要求の概要及び新たな土地改良長期計画について」

(2) 「本県における農業農村整備の実施状況と展開方向について」

## 栃木県ほ場整備連絡協議会第23回通常総会を開催

栃木県ほ場整備連絡協議会（会長：田井哲日光市土地改良区理事長）は、去る6月29日に栃木県土地改良会館において、栃木県農政部の南木好樹農地整備課長及び各農業振興事務所の担当部長並びに水土里ネットとちぎ穂野和人専務理事を来賓に迎え、通常総会を開催しました。

会員数38団体を有する同協議会は、圃場整備事業の推進を契機とした担い手の育成や農地集積のための様々な情報交換の場の提供を目的に活動をしています。

冒頭、平成27年度に換地処分が完了した4地区の会員土地改良区に対して、田井会長から表彰状の授与が行われました。また、本年度に退任される3名の役員経験者に対して感謝状が贈呈されました。

総会は、国府田厚志長沼西部土地改良区理事長を議長に選任し、平成26年度事業報告、同収支

決算、平成28年度事業計画、同収支予算、規約の一部改定及び役員の改選の6議案は、原案のとおりに可決承認されました。

総会後に行われた会員研修会では、南木農地整備課長を講師に招き、最新の各種事業制度等についてのご講演をいただき、見聞を広めました。



表彰状を授与する田井会長

### ◇ 表彰状授与地区 ◇

| 管 内 | 市 町  | 地区名    | 事 業 名               | 受益面積<br>(ha) | 総事業費<br>(千円) | 換地処分公告日     |
|-----|------|--------|---------------------|--------------|--------------|-------------|
| 上都賀 | 鹿沼市  | 深津     | 県営土地改良<br>(区画整理) 事業 | 89.8         | 1,281,560    | 平成27年11月24日 |
| 芳 賀 | 真岡市  | 小貝川西Ⅱ期 | 県営土地改良<br>(区画整理) 事業 | 266.9        | 2,442,489    | 平成28年3月8日   |
| 下都賀 | 下野市  | 武名瀬川   | 県営土地改良<br>(区画整理) 事業 | 77.7         | 771,996      | 平成27年9月29日  |
| 那 須 | 大田原市 | 二輪     | 県営土地改良<br>(区画整理) 事業 | 30.6         | 372,057      | 平成28年2月16日  |

### ◇ 特別表彰者 ◇

※敬称略

| 管 内 | 市 町 | 所属土地改良区 | 役 職 | 氏 名     | 役 員 就 任 期 間          |
|-----|-----|---------|-----|---------|----------------------|
| 上都賀 | 鹿沼市 | 深津      | 理事長 | 上 田 芳 雄 | 平成24年7月1日～平成28年6月30日 |
| 芳 賀 | 真岡市 | 清次郎口用水  | 理事長 | 井 澤 孝 之 | 平成20年7月1日～平成28年4月25日 |
| 芳 賀 | 市貝町 | 小貝川中部   | 理事長 | 小 森 瑞 男 | 平成22年7月1日～平成28年4月26日 |

## 栃木県土地改良換地士部会第43回通常総会を開催

日 時：平成28年7月29日（金）

午後1時30分～

場 所：栃木県職員会館ニューみくら

栃木県土地改良換地士部会（菅又亜夫部会長）は、第43回通常総会を開催し、菊地義則換地士を議長に選任し、次の6議案について審議し、全て原案どおり承認並びに議決しました。

### 【議事】

第1号議案 平成27年度事業報告について

第2号議案 平成27年度収入支出決算について

第3号議案 平成28年度事業計画について

第4号議案 平成28年度会費の額、納入時期について

第5号議案 平成28年度収入支出予算について

第6号議案 運営細則の一部改正について

総会終了後は換地士の資質向上のため、全国土地改良事業団体連合会中央換地センターの浦山正四所長を講師に招き、「土地改良換地を巡る情勢」をテーマに研修会を実施しました。



開会挨拶をする菅又部会長



講義される浦山所長

## 平成28年度換地関係異議紛争処理実務研修会を開催

去る10月6、7日の2日間、関東ブロックの平成28年度換地関係異議紛争処理実務研修会が宇都宮市において、農林水産省、関東農政局、全国土地改良事業団体、関東ブロック管内の各県及び各県土連の担当者48名が出席して開催されました。

本研修会は、全土連（中央換地センター）の主催により、土地改良換地に関する異議紛争の未然防止及び早期解決の促進を目的として、開催されたものです。初日の研修会は、冒頭の挨拶の後、農村振興局整備部土地改良企画課の秋田課長補佐から「換地を取り巻く状況について」と題し、換地関係状況の報告が行われました。続いて、茨城県及び静岡県から異議紛争処理事例が発表され、この二つの事例を基に検討会が行われ、闊達な議論及び総括が行われました。二日目は、岩手県に

おける農地中間管理機構の関与した換地事例が報告され、知見を拡げるテーマでありました。

最後に、全土連中央換地センターより財産管理制度活用実態調査のプレ調査結果の報告等が行われ、2日間にわたる研修会を終了しました。



研修会の状況

## 栃木県土地改良換地士部会優良先進事例 視察研修会を開催

栃木県土地改良換地士部会（菅又亜夫部会長）は、去る9月8日、山形県村山市の村山東根土地改良区（森谷敏正理事長）において土地改良換地士の資質の向上を目的として、優良先進事例視察研修会を開催し、当士部会員12名が参加しました。

研修会は冒頭、森谷理事長より歓迎の挨拶を頂き、菅又部会長が謝辞を述べられ、その後、同改良区職員及び山形県士連職員より、土地改良区の概要及び事業実施中の西郷名取地区における換地計画原案作成から一時利用地指定までの作業状況等の説明を受けました。

雪国ならではの面工事实施期間や換地方式の相違など、事業における地域性を認識させられる研修会になりました。



西郷名取地区の現地研修状況

## 平成28年度関東農地集団化推進協議会講習会 及び幹事会を開催

関東農地集団化推進協議会は、去る11月10、11日の2日間、日光市において平成28年度講習会並びに幹事会を開催しました。関東各県士連から換地技術者14名の参加がありました。

本協議会は、関東農政局管内の各県土地改良事業団体連合会を会員として組織され、換地や交換分合を適正かつ円滑に推進することにより、農業生産基盤の整備、農業生産性の向上、農業生産の選択的拡大及び農業構造の改善に寄与することを目的として、農地集団化事業の調査研究、講習会、研修会及び表彰等の各種事業を実施しています。

初めに、本会穂野和人専務理事は、挨拶で「農業情勢が著しく変動する昨今、農地の集団化、集積に関わる換地技術者への期待とその役割は大きなものがあります。本協議会を通じて各県の換地業務に生かされ、技術力向上に繋がることを期待します。」と述べました。

講習会は、「土地改良事業計画についての専門技術者の調査・報告について」を福田信博栃木県土地改良換地士部会副会長から、次に「行政不服審査法、個人情報保護法・特定個人情報保護法について」を浦山正四全国土地改良事業団体連合会中央換地センター所長からそれぞれ講演をいただき、各県の状況報告や活発な質疑応答が行われました。

また、この後に開催した幹事会では、表彰候補の推薦並びに土地改良換地士試験対策講習会の報告等が協議されました。

2日目は、日光市芹沼地区の現地において、土地改良事業を契機に集落営農から法人化した農事組合法人日光アグリサービス代表理事組合長沼尾一郎氏から、ほ場整備事業の概要、集落営農から法人化への取組み、園芸の振興、環境配慮と地域活動、日光アグリサービスの基本理念及び将来構想等について、講義を頂きました。



挨拶する穂野専務理事



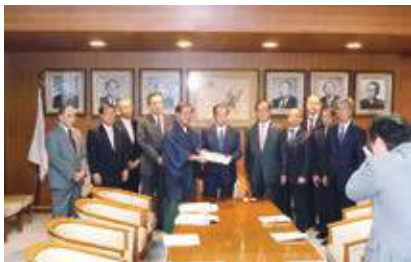
沼尾代表理事組合長による講演

## 農業農村整備事業推進に関する要請活動を実施

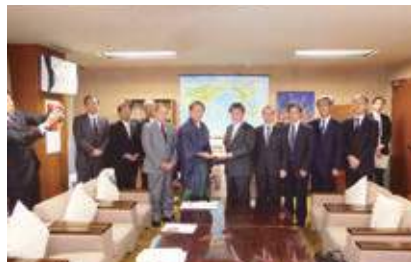
去る11月18日、関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会（会長大久保寿夫本会会長）は、農業農村整備事業推進に関する要請活動を実施しました。

当日は、大久保本協議会長の他、関東一都九県土連の各専務理事・常務理事、事務局長等が参集

し、二階俊博自由民主党幹事長、茂木敏充政務調査会長、小泉進次郎農林部会長、西川公也農林・食料戦略調査会長、岩元達弘財務省主計局主計官、農林水産省農村振興局、関東農政局に対して、それぞれ要請書（後記）を手渡し、農業農村整備事業推進について要請を行いました。



二階幹事長、西川調査会長に  
要請書を手渡す参加者



茂木政務調査会長に要請書を  
手渡す参加者



岩元主計官に要請書を  
手渡す大久保協議会長

### 要 請 書

関東地域の農業農村整備事業の推進につきましては、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の農業・農村は、TPP 協定の大筋合意を受け、農業の成長産業化を加速していくことが求められる一方で、過疎化や高齢化、担い手不足に加え、人口減少に伴う地域活力の低下、また、米価の下落など一段と厳しさを増しています。

こうした中、これまで、ほ場条件の改善や農業用水の安定供給を通じて水田農業の発展を支えてきた土地改良も、農地や農業水利施設等の機能を次世代に引き継ぐだけでなく、高収益作物の導入を通じた所得の向上や更なる生産コストの削減をもたらす、力強い農業を牽引するものとして深化させる必要があります。

農業農村整備事業予算は、公共事業費全体が横ばいの中、平成27年度補正予算と平成28年度当初予算を合わせ、前年度より1,222億円の増額を実現することが出来ました。また、平成28年度補正予算につきましても1,752億円が計上されましたこと、誠に感謝申し上げます。

しかしながら、当初予算は大幅削減前の66%までしか回復しておらず、依然として地域の要望に十分応えられる規模には至っておりません。

農業農村整備事業をはじめとした各種の農業農村振興策を安定的・計画的に推進するとともに、担い手への農地集積の加速化、経営基盤の強化・拡大を実現し、積極的に「攻めの農業」を展開していくためには、真に復活したと実感できる予算規模を確保する必要があります。

つきましては、平成29年度の農業農村整備事業の予算編成にあたり、関東地域の農業農村にかかる事情をご賢察いただき、次の事項について格段のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

- 1 農業農村整備事業の当初予算を安定的に確保すること
- 2 農地中間管理事業の推進と農地集積先行地域への支援を強化すること
- 3 国土強靱化を図る農業水利施設の保全管理並びに防災・減災対策等への支援を強化すること
- 4 多面的機能支払交付金の予算を安定的に確保すること
- 5 再生可能エネルギーの導入促進を図ること
- 6 水土里ネットが有する地図情報システム（水土里情報システム）の有効活用を図ること
- 7 中山間地域総合整備事業の補助金化を図ること
- 8 土地改良区体制強化事業の支援拡大と水土里ネットが有する技術と経験など持てる能力を十分発揮できるよう配慮すること

関東一都九県土地改良事業団体連合会協議会

## 農業農村整備の集いを開催

全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会は、去る11月28日、東京都千代田区の砂防会館別館において、全国の土地改良事業関係者約1,200名を集めて「農業農村整備の集い」を開催しました。

初めに、二階俊博全国土地改良事業団体連合会長が主催者挨拶に立ち、「現在、臨時国会最中で



挨拶を述べる二階会長

ありますが、先般成立しました第2次補正予算で、1,752億円を確保することができました。今後2年間の内に土地改良予算を平成21年度予算の水準に戻すべく努力しているところであります。

また、5月の「農業農村整備の集い」でも申し上げましたが、これからの安定的な予算の確保には、当初予算で予算枠を確保することが大変重要であります。来年度概算要求では農水省より1,000億円の増額要求をして頂いておりますが、これらの確保に向けて真剣な対応が重要であります。皆様と共に全力を挙げて取り組んで参りたいと思います。」と述べられました。

続いて、山本有二農林水産大臣より、「本日、ご参集の皆様方におかれましては、我が国の農業農村の振興と豊かな国土の形成に、より一層お力添え頂くことを期待しております。この集いの成功が、全国の農業農村の発展の契機となることを祈念いたします。」と祝辞が述べられました。

引き続き、西川公也農林・食料戦略調査会長、宮腰光寛食料産業調査会長、今村雅弘復興大臣、

進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問から来賓挨拶があり、次に、農林水産省から細田健一農林水産大臣政務官、矢倉克夫農林水産大臣政務官及び農村振興局幹部職員、衆参両院国会議員が紹介されました。

事例発表では、園芸団地の造成により農業競争力の強化に取り組んでいる秋田県由利本荘市土地改良区、大規模畑かん地区において農業競争力の強化に取り組んでいる群馬県赤城西山麓土地改良区、農業水利施設の戦略的保全管理に取り組んでいる熊本県三角町土地改良区から、それぞれの状況が発表されました。

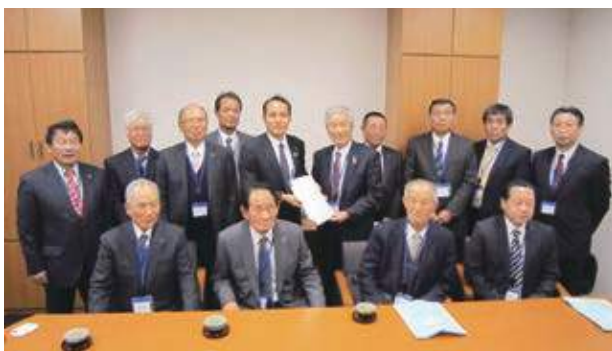
要請案文提案では、新潟県土地改良事業団体連合会の渡辺専務理事から要請文（後記）が朗読され、これを全会一致で採択しました。

最後に、愛媛県土地改良事業団体連合会の三好幹二会長の音頭によりガンバロウ三唱が行われ、盛会裏に終了しました。

集い終了後、本県の参加者33名は、要請書に盛り込んだ事項の実現を図るため、本県関係11名の衆参両院国会議員に要請を行いました。



農業農村整備の集いの状況



築和生衆議院議員に要請書を手渡す参加者



渡辺美知太郎参議院議員に要請書を手渡す参加者

## 要 請 書

全国の農業・農村では、本格的な人口減少社会の到来により、過疎化、高齢化、担い手不足等による農地の荒廃、農地・農業用水等の管理や営農の継続への影響が懸念される。

一方、TPP 協定の締結が予定される中、昨年 11 月に決定された「総合的な TPP 関連政策大綱」の着実な実施が求められている。

また、本年 4 月に発生した熊本地震や 8、9 月の北海道・東北地方への台風・豪雨により、農地・農業施設等に甚大な被害が生じており、被災された農業者の方々が一日も早く営農を再開できるよう、速やかな復旧対策が求められている。

さらに、東日本大震災による被災地の農業の再生に向けて、引き続き復旧・復興事業を着実に進めていく必要がある。

このような中、政府は 8 月に新たな「土地改良長期計画」を閣議決定し、産業政策としての「豊かで競争力ある農業」、地域政策としての「美しく活力ある農村」、この土台としての「強くてしなやかな農業・農村」を掲げ、各種施策を計画的に推進することを表明したところである。

全国の水土里ネットは、これまで培ってきた経験と技術を活用し、先人達のためめめ努力により維持・活用されてきた農地・農業用水等の地域資源を良好な状態で次世代に継承していかなければならない。

更に、国が目指す施策の展開方向を踏まえ、土地改良事業の実施を通じて、高収益作物への転換、担い手の育成・確保、6 次産業化等による農業所得の向上により力強い農業を実現し、食料の安定供給の確保に貢献していくとともに、農地・農業用水等の地域資源の保全管理、農村協働力の強化等を通じて、農業・農村の多面的機能の発揮に貢献していく覚悟である。

土地改良関係予算は、先般成立した第 2 次補正予算で 1,752 億円が確保され、大幅削減前の平成 21 年度の水準には達していないものの徐々に回復してきている。しかしながら、事業の計画的な実施を望む全国の切実な声に応えるためには、当初予算による安定的な予算確保が不可欠である。

我々は農業・農村の振興に向け積極的に貢献していく所存であり、「闘う土地改良」のスローガンの下、次の事項の実現を国に強く要請する。

## 記

- 1 土地改良関係予算を可及的速やかに平成 21 年度の水準に復活すること。特に、安定的・計画的な事業執行のため、平成 29 年度当初予算においては、概算要求額の満額を確保すること。
- 2 担い手への農地集積、生産コストの低減、高収益作物の生産等、農業の構造改革を加速化するため、農地の大区画化、水田の畑地化・汎用化、畑地・樹園地の高機能化等の対策を一層推進すること。その際、中山間地域等においても、農業経営の持続的な発展に向けて、地域特性を踏まえた基盤の整備が可能となるよう措置すること。また、農地中間管理事業による担い手への農地の集積・集約の推進に当たっては、農地整備事業との連携を強化するとともに、水土里ネットが有する技術、経験、水土里情報システムなど持てる能力を十分発揮できるよう配慮すること。
- 3 東日本大震災をはじめとする未曾有の災害からの復旧・復興を早急かつ加速度的に進めること。併せて、農村地域の強靱化に資するよう、ため池を含む農業水利施設等の更新・長寿命化や耐震化、洪水被害防止等の防災・減災対策についても国が責任を持って着実に推進すること。
- 4 これまで水土里ネットでは、地域の合意形成や共同管理を通じて「農村協働力」を強化し、農村の地域資源を支えてきた。このため、多面的機能支払制度による農地や水路、農道等の保全活動の推進に当たっては、十分な予算の確保を図るとともに、水土里ネットが有する技術、経験など持てる能力を十分活用し進めること。
- 5 構造改革の推進による組合員の減少や電気料金値上げなど、水土里ネットの運営基盤が大きく揺らいでいる中、今後とも担い手等のニーズに応える高度な施設の維持管理が行えるよう、地域資源を有効に活用した小水力発電等による施設の維持管理費の軽減など、水土里ネットの運営基盤を強化できる仕組みを取り入れること。

平成 28 年 11 月 28 日

全国土地改良事業団体連合会  
都道府県土地改良事業団体連合会

## 平成28年度土地改良区体制強化事業複式簿記促進研修会を開催

本会は、去る11月11日、土地改良会館3階大会議室において、平成28年度土地改良区体制強化事業複式簿記促進研修会を全国土地改良事業団体連合会との共催により開催し、本会会員土地改良区役職員、県職員等88名が参加し、熱心に聴講されました。

今日、土地改良区には、組合員のコスト意識の高まり、公共組合として説明責任の達成、横領等不祥事の未然防止等に向けた適切な組織運営が求められております。これらの要求に応えるためには、「財産状況の的確な把握」や「正確な費用の把握」等が容易とされます複式簿記会計への移行が必要とされています。このことから、この研修会は、関係者が、複式簿記会計システムや会計基準の理解を深められ、土地改良区の複式簿記会計への移

行が円滑に推進されるよう実施したものです。

研修会では、次の課題について各講師から講義を頂きました。



開催県挨拶を述べる穂野専務理事



講演する田村参与



講演する飯島係長



研修会の様子

### 【研修課題】

- (1) 会計制度、複式簿記の基本について  
講師 全国水土里ネット 参与 田村 栄二氏
- (2) 検査指導基準、会計基準について  
講師 農村振興局整備部土地改良企画課  
技術係長 飯島 康生氏
- (3) 会計記帳実務（実践土地改良区の事例紹介）  
講師 群馬県 長野堰土地改良区  
係長 松澤 伸一氏
- (4) 資産評価と減価償却  
講師 全国水土里ネット 主任 金内 琴美氏
- (5) 複式簿記を活用した土地改良区運営について  
講師 全国水土里ネット 参与 田村 栄二氏



講演する松澤係長



講演する金内主任

## 平成28年度土地改良区等職員研修会を開催

本会は、去る12月1～2日の両日、平成28年度土地改良区等職員研修会を日光市のきぬ川スパホテル三日月において、土地改良区等職員研修会を開催しました。本研修会は、土地改良区等の職員を対象に、職員の資質の向上と会員水土里ネット職員相互の交流を深め情報交換を行うことによって、水土里ネットの適正な運営に資することを目的に開催しました。

第1日目の研修は、はじめに、「土地改良区運営の男女共同参画と業務の適正化について」と題して、関東農政局土地改良管理課・高嶋弓子農地集団化推進官から説明をいただきました。今後の土地改良区運営の展開方向として、就農者の減少や高齢化といった状況から、土地改良区が行う事業への理解を求めながら、女性を含む多様な人材の参画を推進していく必要があると述べられました。また、昨今の土地改良区における不祥事問題の発生に関して、土地改良区が極めて公的性格の強い団体であることから、役職員がその職務を強く認識して頂いて、透明性を持った業務運営を心掛けてほしいと述べられました。

次に土地改良区の活動実践事例について、3水土里ネットからパワーポイントを用いて発表して頂きました。

1例目として、水土里ネット思川西部の山中昇事業係長から「田んぼアートを実践して」と題し、土地改良区や農業農村整備事業の役割を地域住民の方などへのPRの取り組み方法等を発表して頂きました。



高嶋農地集団化推進官



山中事業係長

2例目として、水土里ネット三栗谷用水の足立一彦事務局長から「非補助農業基盤整備資金を活用して」と題し、土地改良区管理施設用地に太陽光発電施設を非補助制度資金を活用して設置し、運営の合理化等につなげる取り組みを発表して頂きました。



足立事務局長

3例目は、水土里ネット荒川南部の平野育男事務局長から「都市農村交流を機に土地改良区が活性化」と題し、都市農村交流活動が農業農村のPRはもとより、役職員や組合員の地域への意識の变革につながり、土地改良区が活性化した状況が発表されました。



平野事務局長

続いて、「時事講演～たまごキャッチボールの心で～」と題して、進藤金日子参議院議員秘書の馬籠剛一氏に講演を頂きました。コミュニケーションをキャッチボールにたとえられ、良好な関係を築いていくためには、たまごをキャッチボールするよ



馬籠剛一氏

うな割れないように手渡すくらいの気遣いを持って行うことが大切と説かれました。水土里ネットの運営にも通じるものがあると感じ入らせて頂きました。

第2日目は、本会横山和彦事務局長が座長となり、冒頭、平成29年度農業農村整備事業予算の概算要求について概要を説明後、事務局長等意見交換会を実施しました。意見交換会では、事前に提出頂いた意見交換のテーマについて、出席された水土里ネットの状況等をそれぞれから説明して頂きました。最後に、横山事務局長が、「出席された土地改良区の規模やその状況は、千差万別ですが、この交換会を通して、それぞれの悩みや、課題、問題点がお互いに共通する点でもあることに気付かされました。テーマについて、結論を導くものでありませんでしたが、皆さんにとっても、今後の土地改良区を運営していくうえで、大きなヒントになったものと思います。」とまとめて閉会しました。



研修会の様子

## 第32回とちぎ“食と農”ふれあいフェア2016に出展

とちぎ“食と農”ふれあい実行委員会主催の第32回とちぎ“食と農”ふれあいフェア2016は、10月29日（土）～30日（日）の二日間、県庁及び周辺施設を会場にして開催され、本会も実行委員会主催団体の構成メンバーとして出展いたしました。

このフェアは、29日午前9時45分に県庁本館入口でオープニングセレモニーが、福田富一知事をはじめとする主催団体・後援団体関係者並びに五月女裕久彦県議会議長をはじめ、多くの来賓が臨席する中、福田知事の主催者挨拶、県議会議長が来賓を代表として祝辞を述べられ、続いて、知事、県議会議長ら主催、後援及び来賓を代表して、7名によるテープカットが行われ、二日間のふれあいフェアが開幕しました。

フェアは、栃木県の食と農の魅力を発信し、農業・農村への理解を深め、消費者と生産者との信頼関係を深めることを目的として、「きて みて 感じる! とちぎの農力 ふるさとの味力」をテーマに掲げ、栃木の豊かな農業・農村を未来に繋いで

いくために、県産農産物の本物の味わいや農業に関する体験を通して、本県の“食と農”の魅力を県民に実感してもらうために開催するものです。

なお、2日目も好天に恵まれて、栃木の“食と農”が一同に介した祭典に昨年度よりも、多くの県民が訪れました。

来場者には、「とちぎの農力」、「ふるさとの味力」を感じて頂けたのではないのでしょうか。



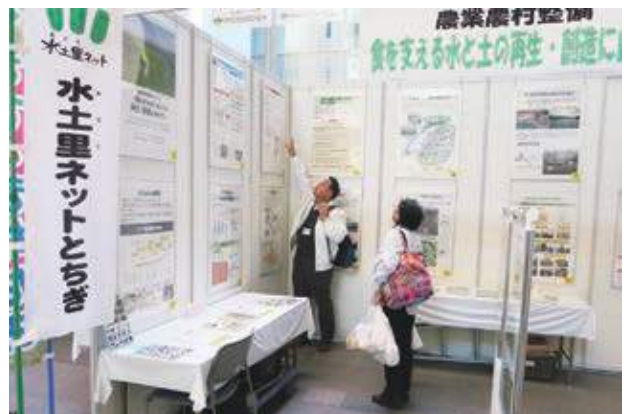
オープニングセレモニーでのテープカット

### ◇ 本会の出展内容 ◇

本会の展示ブースは、主催者団体出展エリア内において出展し、来場者に農業・農村への理解を深めていただき、ここから更に農の魅力を感じていただくため、パネルの展示を中心に、関連冊子の展示及びパンフレット、下敷きの配布等を行いました。

パネル展示では、「食を支える水と土の再生・創造に向けて」事業推進する農業農村整備事業の説明、農業・農村が持つ多面的機能の紹介、水土里ネットが主体的に実施したPR活動事例の紹介を行いました。

また、多面的機能支払交付金（農地・水）による活動組織の環境保全活動事例集及び「田んぼまわりでみられる生きものたち」下敷きの配布、マップ・写真コンテスト作品集の展示を行いました。



熱心にスタッフの説明を聞く来場者



興味深く本会展示ブースを見入る来場者



## 「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展2016を開催

全国土地改良事業団体連合会主催の「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展が、農林水産省、総務省、文部科学省、国土交通省、環境省、東京都など多くの後援を得て、「未来を担う子どもたちが絵画制作を通して、ふるさとのすばらしさを発見し、水と土への関心を高めてもらうとともに作品の展示や作品集の発行により、多くの人々に農業・農村の魅力をアピールすること。」を目的に開催されました。

本年度で第17回目を数えるこの絵画展は、「新発見！ぼくのわたしのふるさと」にまつわる題材で募集いたしました。

応募作品は、全国各地から7,879点にのぼり、10月11日に全国審査会が開催され、本県関係の応募については、67点の応募があり、次の4作品が入賞・入選を果たしました。

### 不二家ファミリー文化研究所賞



花井 彩葉（宇都宮市立横川西小3年）  
「おじいちゃんのいちご」

### 入 選



築瀬 葵（矢板市立乙畑小1年）  
「水門」

### 入 選



沼野 結衣（矢板市立乙畑小3年）  
「とんぼがいねにくっついたよ。」

### 入 選



黒崎 栞杏（宇都宮市立富屋小3年）  
「徳次郎町の夏まつり」



作品提供：全国土地改良事業団体連合会

## 美しいとちぎのむら写真コンテスト審査委員会を開催

本会は、栃木県及びふるさととちぎ21活性化塾（公益財団法人栃木県農業振興公社）との共催により、将来を担う中学生・高校生が農村に足を運び、その風景や四季折々の自然、そこに暮らす人々の営みの撮影を通して、農業・農村への理解と関心を深める契機となることを願い、美しいとちぎのむら写真コンテストを実施しています。

本年度が23回目の開催となるコンテストは、「躍動する農業・農村の姿を撮ってみよう」をテーマに、「農業に生き生きと携わる人々の姿」や、「農地、水、農

村環境を守る活動」の様子などを題材に募集しました。

応募作品は、中学校3校121点、高等学校6校53点の計174点にのぼり、去る12月22日、とちぎアグリプラザにおいて審査委員会（大手義雄審査委員長）を開催し、別掲のとおり部門別に、最優秀賞1点、優秀賞2点及び入選10点を決定しました。

入賞作品については、栃木県庁本館15階展望ロビーにおいて、2月13日（月）から17日（金）までの5日間展示会を開催し、広く県民に紹介しました。

### 農業に生き生きと携わる人々の姿部門入選作品



最優秀賞（知事賞）「田植え風景」



優秀賞（県農政部長賞）「私たちかわいいでしょ」



優秀賞（県農政部長賞）「収穫」

### 農地、水、農村環境を守る活動部門入選作品



最優秀賞（知事賞）「和やかに生き物観察」



優秀賞（県農政部長賞）「流れる道」



優秀賞（県農政部長賞）「私の自然と筑波山」

## 《平成 28 年度美しいとちぎのむら写真コンテスト入賞一覧》

## (1) 農業に生き生きと携わる人々の姿部門

| 賞 区 分                         | 学 校 名     | 学年 | 氏 名     | 題 名         | 撮 影 地 |
|-------------------------------|-----------|----|---------|-------------|-------|
| 最優秀賞 (知事賞)                    | 小山北桜高校    | 2  | 柴 山 汐 里 | 田植え風景       | 小山市   |
| 優 秀 賞<br>(栃木県農政部長賞)           | 栃木農業高校    | 3  | 山 崎 夢 香 | 私たちかわいいでしょ  | 宇都宮市  |
|                               | 真岡市立長沼中学校 | 3  | 藤 澤 武 蔵 | 収穫          | 真岡市   |
| 入 選<br>(ふるさととちぎ 21<br>活性化塾長賞) | 小山高校      | 1  | 海老澤 快 杜 | 秋の訪れ        | 下野市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校 | 3  | 上 野 聖 幸 | 受け継がれる意思    | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校 | 3  | 中 田 輝   | 作業中         | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校 | 3  | 飯 野 那 誓 | 最高の笑顔       | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校 | 3  | 百目鬼 朱莉佳 | 青空の下で       | 真岡市   |
|                               | 小山北桜高校    | 1  | 清 水 千 聡 | 種なし葡萄の作り方   | 小山市   |
|                               | 小山北桜高校    | 2  | 越 生 瀬玲奈 | コレワ ハヤイデスネェ | 小山市   |
|                               | 小山北桜高校    | 3  | 高 野 将 矢 | 苗をセットして…    | 小山市   |
|                               | 栃木農業高校    | 2  | 池 田 磨 美 | 野菜に触れて      | 栃木市   |
|                               | 栃木農業高校    | 2  | 安 西 祐 輔 | 五月の田植え      | 栃木市   |

## (2) 農地、水、農村環境を守る活動部門

| 賞 区 分                         | 学 校 名       | 学年 | 氏 名     | 題 名       | 撮 影 地 |
|-------------------------------|-------------|----|---------|-----------|-------|
| 最優秀賞 (知事賞)                    | 鹿沼商工高校      | 1  | 大 嶋 真 暢 | 和やかに生き物観察 | 鹿沼市   |
| 優 秀 賞<br>(栃木県農政部長賞)           | 真岡工業高校      | 1  | 鷺 谷 俊 輔 | 流れる道      | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校   | 3  | 阿 部 良 美 | 私の自然と筑波山  | 真岡市   |
| 入 選<br>(栃木県土地改良事業<br>団体連合会長賞) | 那須塩原市立篝根中学校 | 1  | 佐 藤 温 大 | 稲のめぐみ     | 那須塩原市 |
|                               | 那須塩原市立篝根中学校 | 1  | 渡 辺 海 嵐 | ダム        | 那須塩原市 |
|                               | 真岡市立長沼中学校   | 2  | 海 野 萌 央 | カラスの下見    | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校   | 1  | 亀 田 眞之祐 | どこまでも続くよ  | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校   | 3  | 杉 山 幸 大 | 四兄弟       | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校   | 3  | 船 橋 美 海 | 山の恵み      | 真岡市   |
|                               | 真岡市立長沼中学校   | 3  | 谷田部 恵   | 仕事        | 真岡市   |
|                               | 那須塩原市立篝根中学校 | 3  | 大河内 陸 斗 | 水路と田んぼ    | 那須塩原市 |
|                               | 小山北桜高校      | 1  | 新 田 亮 太 | 畑         | 小山市   |
|                               | 真岡工業高校      | 2  | 篠 崎 直 人 | 水田        | 真岡市   |

## 鬼怒川右岸地区土地改良区合併予備契約書 調印式が開催

宇都宮市内の「鬼怒川右岸土地改良区」と「五斗内土地改良区」は、去る10月19日、鬼怒川右岸土地改良区事務所において、佐藤栄一宇都宮市長（代理矢古宇克経済部長）及び角田永子栃木県河内農業振興事務所長の立会いの下、合併予備契約書の調印式を挙行了しました。

この合併については、同市内の鬼怒川右岸水系にあった当時の2土地改良区が、組織運営基盤の強化等を目的とし、平成18年4月1日に新設合併した以来の合併となり、同市の鬼怒川右岸水系単位で1土地改良区となることを目指し、市行政や地域との連携を深めながら、組織運営基盤をより一層強化し、効果的な維持管理事業の推進並びに効率的な運営を図っていくために、去る3月18日に吸収合併に向けた合併推進協議会を設立され、合併の推進を行ってきました。

調印式は、次第に基づき、開会の辞を田崎哲夫五斗内土地改良区理事長（合併推進協議会副会長）が行い、会長挨拶は合併推進協議会長である菊池武男鬼怒川右岸土地改良区理事長が行いました。

続いて、合併土地改良区理事長及び調印式の立会人が紹介され、引き続き、田崎昇鬼怒川右岸土

地改良区副理事長が「経過報告」の朗読をもって、本日までの経過について報告がありました。

合併予備契約書の調印は、菊池理事長から順に、田崎理事長、角田所長が合併予備契約書に署名、押印を行い、合併予備契約が締結されました。

その後、来賓挨拶では、佐藤市長（代理矢古宇部長）、角田所長から、農地や農業用施設の整備を担う土地改良区の役割は、益々重要となってまいります。この合併を契機に、組織運営の更なる強化が図られ、当地域が更に発展し、力強く魅力的な地域となるよう牽引役を期待する旨、それぞれ祝辞が述べられました。

閉会の辞は、中里義弘鬼怒川右岸土地改良区理事長（合併推進協議会副会長）が述べて、鬼怒川右岸土地改良区と五斗内土地改良区の合併予備契約調印式がめでたく終了しました。

終了後、同会場において、関係者による記念撮影を行って散会しました。

なお、両土地改良区は、同年11月に開催するそれぞれの臨時総（代）会において、合併の議決を行い、存続する鬼怒川右岸土地改良区によって、栃木県知事あて合併の認可申請が行われる予定です。



合併予備契約書に署名する関係者



合併予備契約書締結後の記念撮影

### ◇新土地改良区の概要◇

- 名 称：鬼怒川右岸土地改良区（吸収合併）
- 受益面積：806ha
- 組合員数：810人
- 総代数：55人
- 役員数：理事10人、監事3人
- 職員数：2人

## 平成28年度県営土地改良事業の 換地業務に係る感謝状贈呈式を開催

去る11月17日、栃木県公館において、平成28年度県営土地改良事業の換地業務に係る感謝状贈呈式が開催されました。

初めに、平成27年度に換地業務を完了された後掲の4土地改良区に対して、赤松俊彦副知事から知事感謝状が贈呈されました。挨拶で赤松副知事は、「長年にわたり換地業務の遂行に尽力され完了されたことに敬意を表しますとともに、今後は地域農業の一層の発展に向けて更なるご尽力を賜りたい。」と述べられました。

続いて、来賓を代表し挨拶に立った本会大久保

寿夫会長は、「換地処分を円満円滑に完了されたことに対してお祝い申し上げますとともに、関係地域の農業・農村の発展と関係各位の活躍を祈念いたします。」と祝辞を述べられました。

最後に、受賞者を代表して、二宮土地改良区の日賀野定一理事長が謝辞を述べられ、式典が終了しました。

その後、公館庭園に移動して、副知事及び来賓と共に受賞地区関係者の記念写真の撮影が行われました。



祝辞を述べる大久保会長

### 感謝状贈呈土地改良区（採択年度順）

二宮土地改良区〔小貝川西Ⅱ期地区（真岡市）〕

深津土地改良区〔深津地区（鹿沼市・宇都宮市）〕

南河内土地改良区〔武名瀬川地区（下野市）〕

湯津上土地改良区〔二輪地区（大田原市）〕



二宮土地改良区



深津土地改良区



南河内土地改良区



湯津上土地改良区

## シリーズ 土地改良区紹介⑮

水土里ネット氏家  
氏家土地改良区

## 地区の概要

氏家土地改良区は、栃木県の中央、さくら市氏家地区（旧氏家町）に位置し、北西に日光連山、北に那須連山をのぞみ、地形は標高142m～190m、勾配は1／160～1／500と平坦で、一級河川鬼怒川が肥沃な耕地を潤し、県内有数の穀倉地帯を形成しております。特産物は、ニラ、トマト、イチゴなどで、農産物直売所では、組合員が丹精込めて栽培した新鮮な農産物を販売しております。

近年、氏家地区（圃場整備地内を含）で栽培した小麦イワイノダイチを使用した、「氏家うどん」も新たな名物として話題となっております。

さくら市は、国道4号線、293号線、JR宇都宮線が通り、近年、増加した国道沿いの大型スーパーマーケット等の商業施設が次々と立ち並び、その利便性から、県内有数の人口増加がめざましい地区であり、今年度の某調査では「住みよさランキング」で栃木県内1位に選ばれました。

市の名称のとおり、春には桜が咲き誇り、美しい田園風景が見られます。

## 圃場整備事業

圃場整備事業については、農業生産の基盤である農道並びに用排水路が未整備であった為、生産力の強化と農業経営の安定と合理化を目的とし、昭和50年1月16日に旧氏家南部土地改良区の設立を始めとし、続いて旧氏家中部土地改良区、旧氏家西部土地改良区、旧氏家東部土地改良区と発足しました。事業については、平成12年度に換地処分が全て完了し、平成16年には4つの土

地改良区による新設合併を実現し、氏家町土地改良区が設立しました。平成17年には旧氏家町と旧喜連川町が合併し、さくら市の誕生に伴い、名称を氏家土地改良区と改称して現在に至ります。

現在の地区面積は、2,214ha、組合員数1,614名、総代60名、役員24名（理事20名、監事4名）職員3名で業務を運営しています。

## 維持管理

圃場整備事業が終了し、現在の主な業務は、施設の維持管理事業です。昭和50年代の事業で造成された水路は、ほとんどが耐用年数を経過し、老朽化が進行しております。当改良区が維持管理する施設は、大型のものがなく、網の目の様に張り巡らされた細かい水路、樋門が主なものです。それだけに、組合員さんからは、生の声が多く届けられます。この要望に応える為、毎年度、旧改良区の4地区ごとに補完工事の要望を募り、地区別に役員が要望箇所全てを現地視察し、工事の内容、対応を協議する等、きめ細かな対応を目指して運営しております。また、該当する補助事業も少なく、農地の転用等による賦課金の減少もあり、限られた予算の中で、“やれる事は自分たちの力でやる”という事を目標に取り組んでいます。役員が集まり、水路に生えた木を伐採したり、組合員さんにはコーキングの支給及びコーキングガンを貸出し、自ら補修していただいたりと工夫しながら、力を合わせて維持管理を行っております。ですが、組合員の高齢化は避けられず、維持管理も年々難しくなっており、今後の大きな課題となっております。



【西部地区】蒲須坂地内  
組合員が丹精込めて栽培したトマト



ご当地新グルメ「氏家うどん」  
当地区内の農地で生産された小麦を使用



【中部地区】 国道4号線蒲須坂バイパスから蒲須坂地区と高原山を望む

また、近年多発するゲリラ豪雨には、市役所、関係機関と連携して、水路の巡回、樋門の開閉を迅速に行う等、災害を未然に防ぐ為の対応に努めております。

都市化が進む中で、近年増加した国道沿いの大型施設の一部は、優良農地の転用により開発されたものでもあり、賦課面積も年々減少し、農地と都市との共存する中で様々な課題、諸問題も出てきております。土地改良事業により整備された水

路は、農業用施設の役割だけでなく、この商業施設からの排水放流先の役割も担っており、土地改良施設使用申請の業務や、開発行為に伴い座標値を求められる事も多く、迅速に対応出来る様に図面や測量データの整備にも努めております。今後も都市化が進む事が予想される中で、非農家の方々にも土地改良区の役割を理解、協力して頂ける様、役職員一同、限られた予算の中で知恵を出し合い、運営に励んでいきたいと考えております。



【東部地区】狭間田地内  
改修された井沼川には鯉が泳ぐ



【西部地区】  
長久保地内  
歴史ある五行川の  
水源



| 土地改良区概要   |                  |
|-----------|------------------|
| 設 立 年 月 日 | 平成 16 年 1 月 15 日 |
| 認 可 番 号   | 栃木県第 648 号       |
| 受 益 面 積   | 2,214ha          |
| 組 合 員 数   | 1,614 名          |
| 総 代 数     | 60 名             |
| 理 事 数     | 20 名             |
| 監 事 数     | 4 名              |
| 職 員 数     | 3 名              |

## 水土里ネット氏家

所在地

〒329-1311 さくら市氏家2579-21

TEL：028-682-2905

FAX：028-682-2905

# 女性が語る、男女共同参画の推進に係る 意見交換会に参加して

総務部総務課 植木美穂 報告

去る1月13日、さいたま新都心合同庁舎2号館において、男女共同参画の意識啓発を目的とした、関東農政局主催による「土地改良団体の男女共同参画の推進に係る意見交換会」が開催されました。私も、土地改良にかかわる女性の一人として、傍聴する機会を得ましたので、その状況等を報告いたします。

## 《参加者》

- ・市貝町土地改良区（栃木県）副理事長 上山貴代子氏
- ・小山用水土地改良区（栃木県）事務局長 石川 房代氏
- ・上里土地改良区（埼玉県）理事 宇田川良恵氏
- ・上里土地改良区（埼玉県）総代 小林佳代子氏
- ・全国水土里ネット 専務理事 中條 康朗氏
- ・経営局就農・女性課女性活躍推進室室長 久保香代子氏
- ・関東農政局 局長 石田 寿氏
- ・関東農政局 次長 永嶋 善隆氏
- ・関東農政局企画調整室 室長 坂本 里美氏
- ・関東農政局農村振興部地方参事官 星川 泰輝氏
- ・関東農政局経営・事業支援部経営支援課長 鈴木 貞美氏
- ・関東農政局農村振興部土地改良課長 和山 輝徳氏
- ・関東農政局農村振興部土地改良課 農地集団化推進官 高嶋 弓子氏



意見交換会の様子

## 《挨拶》 石田関東農政局長

食料・農業・農村基本計画と同様に男女共同参画基本計画は、政府一体となって取組む必要があり、農協や農業委員会と比べ土地改良区は女性の参画が進んでいないのは事実。意思決定における女性の役割、土地改良施設の持続的な維持管理にスポットを当て、いただいた意見を施策の推進に反映していきたい。

## 《意見交換》 座長：石田関東農政局長

## ○発言要旨

### ※上山副理事長※

女性ならではのコミュニケーション力を活かしながら改良区運営に携わっている。時には、聞き役に徹し議論が過熱しそうなときには穏やかな口調で相手を平常心へと導き、理事会など会議のスムーズな進行に努めたり、役職員間の性差、年代差による意見の相違を埋める調整役も大事な仕事の一つとして向き合っている。自分の何気ない一言が問題解決に繋がったりすると、自身がその場にいて良かったと思う。また、土地改良区の事業の理解を得るには、非農家の人たちの理解と協力が必要であり、機会をとらえては座談会を何度も開いて意思の疎通を図り、協力体制が作れるよう啓発に努力している。



### ※石川事務局長※

私が事務局長になったことは、土地改良区にとって改革だった。役員と現場を歩くようになり責任感を持てるようになった。役員の後押しも必要だと思うが、女性も積極的に現場に出向くことは大切。大雨などの緊急時、市街地の用水路近くの住民からの苦情、行政機関への対応など女性に出来ないことはない。就任して約10年、苦労もあったが、現場から得るものも多く、今では組合員と向き合って話し合えるまでになった。



### ※宇田川理事※

男性が当たり前だと思う日頃の些細な疑問が、問題の解決につながることもあり、女性役員は必要。力が足りない施設への整備補修など女性が農業をしやすい環境作りが必要。

### ※小林総代※

集落の農業者が減少する中、水路の草刈りなどを農家だけで行なうのではなく地域住民の方にも協力を求め、気持ちよく作業して頂くよう努めている。

### ※中條専務理事※

現場（施設の操作など）では力がいらず女性に対応できるよう技術が進んでいる。まずは、積極的に女性に参加して頂き、活躍する場、活躍する姿を見て頂く必要がある。

## ※久保室長※

同じ家庭で夫婦とも農業者の場合には、男性の後押しがないと女性は役員になりづらい。経営の決定権は女性でも経営主が男性というところにハードルがあるかもしれない。

## ※坂本室長※

些細な疑問を拾い、地域住民の方々の協力を得て草刈りを楽しくする工夫は女性ならではの。女性の役員が必要ではないか。

## ※星川地方参事官※

草刈り後にお茶を飲む際など女性の方々が集まる機会を捉え、生活者目線の意見を反映させていく仕組みを考えてはどうか。

## ※永嶋次長 総括※

女性の得意分野である地域のコミュニティの醸成は重要。いずれ来る人手不足に対応できるよう、今のうちから、農業・農村の将来を担う女性が、土地改良区が行う事業の計画や整備する施設の設計などにも関与し、女性の力を発揮していく必要がある。関東農政局として、皆様の取組みを積極的にPRしていきたい。

## ■感想

参加しての私の第一の感想は、これまであまり陽の目を見る機会の少なかった土地改良にかかわる女性が、国の職員と意見を交わし、その様子が新聞等で大きく取り上げられることは、同じ土地改良事業に携わる女性の一人として、とても喜ばしく誇りに思えました。

十数年前になりますが、初めて換地の現場に測量に行ったとき、地元の方に、軽い冗談なのか「ミニスカートにハイヒールじゃ仕事にならねえぞ。」と言われたことがあります。もちろん、作業服にスニーカーです。仕事をする上でも同じことを言っているのに、

男性職員の言葉の方が受入れられる。女性だからなのか、「やっぱり土地改良は男社会なのだ。」と、実感させられたことを思い出しました。それが今、国の課題として、少子高齢化対策に男女共同参画社会の実現を掲げ、農林水産省においても農村地域における混住化や地域コミュニティの衰退に注視していく必要があるとし、今後の土地改良のあり方や農業に女性がどのように関わっていけるかを検討する場が設けられています。女性の意見に耳を傾けるようになったことには意味があり、大きな進歩だと思います。地元で活き活きと活動する女性(母)が増えることによって、若い世代(子)が自分の故郷に愛着を持つ。それが農村地域への定住化につながり、農村社会の活力へとつながっていくのではないのでしょうか。女性って、感性と視点がすごく優れていて、引き出しをいっぱい持っています。ただこれを生かすのも殺すのも、周りの理解と環境整備がないとなかなか難しいと思います。最近では、可愛い女性用仮設トイレが開発されており、印旛沼二期地区の事業視察ではもっぱら参加者の目を引いていました。トイレ内には、鏡や鞆かけのフックなど、女性にとってあってほしい設備が備わっているんです。実際の導入までは、課題も多くまだまだ時間がかかるようですが・・・。

長くなりましたが、男女がお互いの個性を認め、「お互いさま」の気持ちでそれぞれが出来ることを最大限に生かす。それが新しい発想を生むきっかけとなり、結果として誰もが使いやすい環境や設備を整えることに繋がっていくのだと思います。そして、安心して将来を迎えるためにも、このような意見交換の場はとても大切なのだと思いました。それを気付かせてくれた、農政局の方々をはじめ意見交換会に出席された皆さまに心から感謝いたします。これから入ってくる若い世代にも、『広がる女性の輪』を継承しつつ、後輩の後押しが出来るようスキルを磨き、いつかは、意見交換する側の立場で参加したいと、図々しく思う今日この頃です。



意見交換会の出席者

前列左から、中條専務理事、石川事務局長、上山副理事長、石田局長、宇田川理事、小林総代、永嶋次長  
後列左から、鈴木課長、坂本室長、久保室長、星川地方参事官、和山課長、高嶋農地集団化推進官

## 「農業競争力強化プログラム」の説明動画が 農林水産省HPに掲載

この度、農林水産省におかれましては、平成28年11月、政府の農林水産業・地域の活力創造本部において決定された「農業競争力強化プログラム」の具体的内容の理解促進のための説明動画

を作成し、ホームページに掲載されました。

説明動画は、下記のアドレスにより掲載ページが開けますので、視聴してください。

[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo\\_kyousou\\_ryoku/index.html](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo_kyousou_ryoku/index.html)

### ◇農業競争力強化プログラム◇

本プログラムは、平成28年11月の「農林水産業・地域の活力創造プラン」の改訂において追加された「更なる農業の競争力強化のための改革」を実現するための課題として、生産資材価格の引き下げや、農産物の流通・加工構造の改革をはじめ13項目に整理したものです。

このプログラムを推進することにより、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決していくことが可能で、農業者の所得向上

が図れるとしています。

「農林水産業・地域の活力創造プラン」は、平成25年5月に内閣に設置された農林水産業・地域の活力創造本部において、農林水産業・地域が将来にわたって国の活力の源となり、持続的に発展するための方策を地域の視点に立って幅広く検討がなされ、我が国の農林水産業・地域の活力創造に向けた政策改革のグランドデザインとして同年12月にとりまとめられたものです。

## 株式会社日本政策金融公庫からのお知らせ

### ◇農業基盤整備資金の金利◇

平成29年2月20日付けで、農業基盤整備資金の金利が次のとおり改定されました。

金利情勢によって変動いたしますので、最新の金利は宇都宮支店にお問い合わせいただくか、金融公庫ホームページでご確認ください。

(単位：%)

| 区 分      | 改 定 前      |           |      |      |      | 改 定 後      |           |      |      |      |
|----------|------------|-----------|------|------|------|------------|-----------|------|------|------|
|          | 融資期間にかかわらず | 融資期間別（一例） |      |      |      | 融資期間にかかわらず | 融資期間別（一例） |      |      |      |
|          |            | 5年        | 10年  | 15年  | 20年  |            | 5年        | 10年  | 15年  | 20年  |
| 都道府県営補助残 | 0.45       | —         | —    | —    | —    | 0.55       | —         | —    | —    | —    |
| 団体営補助残   | 0.30       | —         | —    | —    | —    | 0.40       | —         | —    | —    | —    |
| 非補助一般    | 0.30       | —         | —    | —    | —    | 0.40       | —         | —    | —    | —    |
| 非補助利子軽減  | 0.30       | —         | —    | —    | —    | 0.40       | —         | —    | —    | —    |
| 災害復旧     |            | 0.16      | 0.16 | 0.23 | 0.30 |            | 0.20      | 0.20 | 0.35 | 0.40 |

お問い合わせ先：株式会社日本政策金融公庫

宇都宮支店 農林水産事業 農業食品課 担当：新井 TEL 028-636-3901

<http://www.jfc.go.jp/>

日本公庫

検索